2011年12月1日発行　早蕨　第464号　毎月1日発行（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）

さわらび ホームページ http://www.sawarabi.or.jp

みんなの力でみんなの幸せを

sawarabi さわらび

2 医学講話 自然免疫と獲得免疫
～今年度ノーベル医学生理学賞の概説と前代未聞の受賞劇～
◆福祉村老人保健施設ジュゲム所長
東京大学客員研究員　金井 芳之

6 特集 第30回 さわらび文化祭　秋陽展
優秀作品　誌上作品展

2011 12
vol.464

医学講話

福祉村老人保健施設
ジュゲム所長
東京大学客員研究員
金井　芳之

自然免疫と獲得免疫

～今年度ノーベル医学生理学賞の概説と前代未聞の受賞劇～

■はじめに

ノーベル医学生理学賞はこの領域で顕著な業績を残し、広く医学の発展に貢献した人達に与えられるもので、元は1895年、スウェーデンの産業資本家A・ノーベルによって設立された。第一回が1901年、抗毒素の発見でドイツのE・ベーリングに授与された。敢えて付け加えるが、この賞はその大半を成し遂げた北里柴三郎も同時受賞されるべきであった。これは世界が周知するところである。受賞者の発表は十月三日で、授賞式は同月十日スウェーデンのカロリンスカで挙行される。受賞は三名までと決められているため、対象研究の基盤を成した研究者が第四番目で、ノーベル賞を逸した例もある。今回の受賞対象は「自然免疫」と「獲得免疫」の解明で、有効なワクチンやがん免疫療法の開発に有用であると高く評価された。受賞者は自然免疫で米国のJ.A.ホフマンとフランスのB.A.ボイトナーの二人、そして獲得免疫でR.スタインマンであった。

■自然免疫と獲得免疫とは

感染防御には獲得免疫の他に、生来備わっている**自然免疫**がある。**自然免疫とは獲得免疫が成立するまでの期間を賄う生体防御機構のことである。**他方、分子生物学の進展は、病気の発症が所謂「受容体」を介した情報伝達の異常であることを次々に明らかにしてきた。例に漏れず自然免疫もトールライクレセプター（Toll-like Receptor）（TLR）という受容体を介して作動していることが明らかにされた。TLRが適切に作動すると初期の感染防御機構が発動するが、過剰に働くと関節リウマチなどの難治性自己免疫疾患が発症する。その点でTLRは諸刃の剣でもある。フルに感染して発熱することはTLRが作動していることを示し、描速な解熱は治癒を遅らせることになる。TLRが過剰反応すると所謂「サイトカインストーム」が誘導され病態の悪化を来す。本邦ではフルワクチンにアジュバントを添加するか否か、問題になっているが、このアジュバントこそTLRを介した自然免疫を強化すると同時に獲得免疫を得やすくすると言われている。実際に欧米ではアジュバントが既に「がんワクチン」にも導入されている。全てのワクチンにTLRを過剰反応させないアジュバントの導入が待たれるのである。

なお自然免疫の詳細は「さわらび」四四〇号を参照されたい。

ひとは同じ感染症に二度罹らない。これを称して「二度なしの病気」という。これは故川喜多愛郎氏の命名である。二度なしの病気とは細胞性免疫と液性免疫が成立したことで、これを**獲得免疫**という。細胞性免疫とは感染細胞を破壊するために永続して働くメモリーT細胞が作られた状態を示し、液性免疫とは侵入する細菌抗原に反応する液性抗体を作るメモリーB細胞が作られた状態のことを指す。そのためには後述するが、最初に**樹状細胞**が作動しなければならない。この「二度なしの病気の機序」を利用して感染症を予防するのがワクチンである。従ってワクチンには予想される侵入病原体に対するメモリーT細胞やメモリーB細胞を産生させる機能が備わっていなければならない。免疫には「交叉反応」という裏技があり、ワクチンが完璧でなくても類似細菌抗原と交叉反応して発症抑制又は症状を軽減する効果がある。このことは新型インフルエンザ（フル）にも当てはまり、高齢者は感染しても比較的軽症で済むが、小児で重篤例が多いのは交叉反応の差によると考えられる。高齢者は種々の感染症

に歴戦錬磨であるが、小児は初発感染であるのでこの裏技が使えないのである。この交叉反応という裏技だけで治療出来るにこしたことはないが、フルは流行毎に変幻自在に型を変えるので、それに正確に対応するワクチンが必要となる。

■樹状細胞とは

樹状細胞の発見は１９７３年、今回の受賞者スタインマンによるとなっているが、１８６８年、ドイツのP.ランゲルハンスによってひとの表皮内で発見されていたのと同じもので、当時は単なる神経末端と思われていた。樹状細胞には表面に沢山の突起が出ていて、恰も神経細胞のように見えたからである。しかしこれが正に樹状細胞であり、今日ランゲルハンス細胞として知られているものである。その発見から約百年後の１９７３年、スタインマンが同型の細胞をマウスの脾臓の免疫組織で見いだしたことにより近代免疫学が樹立されたと言っても過言ではあるまい。

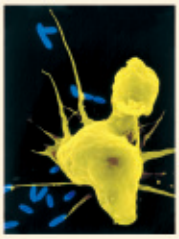
今回話題になった樹状細胞は本質的には我々の生体で清掃に携わっている貪食細胞マクロファージと同系の細胞と捉えることが出来る。樹状細胞は抗原提示細胞（APC）とも言われ、生体に侵入する微生物病原体（抗原）などをいち早く感知、貪食消化した後、抗原の断片をひとそれぞれ特有の組織適合性抗原（MHC）と一緒に細胞表面に提示することが出来る。MHCにはIとIIがあり、Iと抗原断片とともにリンパ球に提示されると微生物を丸ごと攻撃するキラーT細胞となる。一方IIと一緒の場合はヘルパーT細胞となり、B細胞を活性化して血中に沢山の感染防御抗体を放出するようになる。これらの活性T細胞や活性B細胞がメモリー細胞として保存され、獲得免疫が成立するのである。図1は樹状細胞（マクロファージ）（APC）が細菌を貪食しているところ、図2がAPC（大きい方）がT細胞に接触しているところである。

■禍根を残す今回の受賞劇？

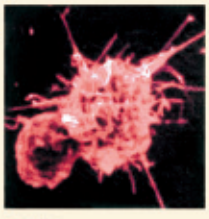
今回の受賞の対象が卓越した研究であった事に異論を挟む科学者はいないであろう。しかし今回の受賞には前代未聞の事象が発生した。受賞発表以前の九月三十日にスタインマンは故人となっていたのであるが決定通りスタインマンが受賞したことである。これまで死亡者はノーベル賞の対象にならないという慣例からすると其れを破った訳で微笑ましい話にもなる。受賞の理由は選考時には生存していたということらしい。ノーベル賞に値する業績を残しながら四人目であるが故に受賞を逸した例があるが、今回は自然免疫でその第四に該当する研究者がいたと言う。それはR.メドジトフ、ウズベキスタン出身でエール大学教授である。自然免疫と獲得免疫の連携を提唱した同じくエール大学教授の故C.ジェインウエイの師弟として自然免疫の分子生物学の権威でもある。彼はノーベル賞発表の直前にノーベル賞受賞者のホフマンとボイトナーの二人とともに自然免疫で権威あるシャウ賞を受賞している。英国医学誌「ランセット」のレポートによるとボイトナーとメドジトフは不仲であったと言う。さらに研究とは無縁であるが、メドジトフはいわゆるマスコミ受けが悪く社交的ではなかったようだ。メドジトフが自然免疫で業績があったにも拘わらず死亡したスタインマンに替わって受賞できなかったのも、こんなしがらみが浅からず係わっていたようである。

■終わりに

近代免疫学の草分けは１８８２年、マクロファージを発見したE.メチニコフで１９０６年にノーベル医学生理学賞を受賞、今回のノーベル賞は其れを発展させた第二のノーベル賞と言えよう。なお本文は過去二十年間に認められたScientific Americanの総説に由来するところが多い。写真も当該誌のものを引用したものである。



●図1



●図2

長寿医学研究所

研究通信

news of study

Vol. 44

福祉村病院長寿医学研究所
副所長・微生物学免疫学分野長
本多 三男

【実験して確かめてみることの大切さ、結核のコントロールへの取り組み】

日本の赤ちゃんは一才までにBCGワクチンの予防接種をうけ結核にかからないようにしています。そして大きくなるにつれ、ポリオ生ワクチン、日本脳炎ワクチン、百日咳・ジフテリア・破傷風三種混合生ワクチン、はしか生ワクチンなどの接種をうけることになっています。今まで皆さんがうけてきた予防接種の記録は、母子手帳に残っており、それらの重症感染症に抵抗性が付与されていることを示しています。

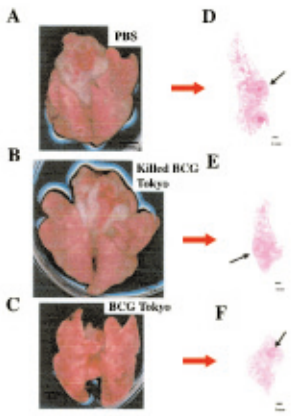
ところでワクチンという言葉は十八世紀末（日本では江戸時代、寛政の改革の頃）天然痘に対する予防ワクチンを世界で最初に発明したジェンナーによってつくられたものです。ラテン語で牝牛の事をワッカ（vacca）といいますが、この言葉から天然痘を予防する為に使った牛痘のうみ（痘苗）のことをワクチンとよびました。この牛痘種痘法は人類に大きな恩恵をもたらし、多くの感染症を予防するワクチンがつくられました。これらの予防ワクチンはジェンナーの業績をたたえて〝ジェンナーの贈り物〟と呼ばれ、ワクチンという言葉が使われ始めました。

ジェンナーは病気の原因である天然痘ウイルスがまだ明らかになっていない時代に、その病気を予防するワクチンを作りました。牛の乳絞りをする女の人で、手に痘疱が出来た人が〝美しい〟のは、牛痘にかかって天然痘にはかからなくなったから〝あばた顔〟にならなくてすんだのではないかと推測したことがきっかけです。それを科学的に証明しました。医学における観察眼をみがくことの大切さと、〝考えてばかりいないで実験して確かめてみることの大切さ〟を示しています。さらにこれらのことは〝予防の有効性と大切さ〟をも示しています。

結核・エイズ・マラリアは人類の健康を脅かす三大感染症であり、それらのより良い予防あるいは治療の有効な方法を発見しようと多大な努力がなされています。なかでも結核は今なお多くの人の命を奪う手ごわい感染症です。

福祉村病院でも結核対策は重要な課題であり、①なぜ結核感染は自分の免疫で制御し排除できないのか、②年をとると結核が再発しやすいのを防げないか、③今のBCGワクチンの効果は充分か、④新しい第二世代ワクチンを開発できないかについて取り組みが進められています。

ヒトの体は病原性のないワクチンを接種すると異物と認識し排除するように出来ています。その働きは異物を食べて解体する自然免疫と抗体産生による液性免疫、さらに感染した細胞を取り除く細胞性免疫で担われていますが、結核感染症をコントロールするには細胞性免疫が重要と言われてきました。我々は、最近の研究でBCGワクチンは死菌では十倍、生ワクチンで百倍の抗菌効果があることを明らかにし（図A—F）、結核感染で感染防御に最も関与しているのはインターフェロンを産生しているCD4陽性T細胞であること、さらに細胞性免疫の効果細胞であるはずのCD8陽性細胞は本来の働きをしていないことを明らかにしました。これらの成果は我々が取り組んでいる新たな組み換えBCGワクチンの開発に組み込まれつつありその効果が期待されています。



地域密着型サービス事業所

「すぎやま」「みのわ」（仮称）起工式

～地域に根ざした施設を目指して～

◉「みのわ」起工式

去る十月十一日（火）十時から来年春に開設が予定されている地域密着型サービス事業所の起工式を執り行いました。「みのわ」は小規模特別養護老人ホームの建設が予定されています。

さわらび会から理事長、専務理事、各施設長等が参加し、施工業者、地元代表者の方々にも参加いただいて厳かな雰囲気の中、式が行われ建設の無事を祈りました。

●「みのわ」起工式の様子

◉「すぎやま」起工式

同じく十月十一日（火）十四時からは市内杉山町の建設予定地で地域密着型サービス事業所「すぎやま」の起工式が執り行われました。この「すぎやま」は小規模特別養護老人ホーム、認知症対応型グループホーム、認知症対応型デイサービスの複合施設となります。

両施設とも地域に根ざし、皆様と共に歩む施設を目指して参ります。

（金森）

●「すぎやま」起工式の様子

●建築の無事を祈って

●鎌入れの儀の様子

ご利用者募集
正職員・パート職員募集

お問い合わせ先

☎0532―37―1209

特別養護老人ホーム
第二さわらび荘

◎ご利用に関して　担当　長坂・東郡

◎職員募集に関して　担当　浦野・金森

第30回 さわらび文化祭 秋陽展

優秀作品　誌上作品展

◆書道部門

特選

「遊」
坂牧 由里子さん
（若菜荘職員）

入選

「千里の道も一歩から」
青木 幸夫さん
（若菜荘利用者）

入選

「秋」
青山 つゆみさん
（常盤職員）

入選

「夏雲奇峰多し」
村松 頼雄さん
（福祉村地域包括支援センター利用者）

◆さわらび文化祭

福祉村ロボット展

十一月三日に開催された第三十回さわらび文化祭で、第二さわらび荘一階ふれあいホールにて豊橋技術科学大学の寺嶋教授のグループを中心に福祉ロボット展が行われました。

昨年に引き続き、文化祭での展示は二回目となり、今年も一〇名ほどの学生スタッフにご協力をいただきました。

展示の内容は全方向移動型車椅子、コミュニケーションロボット等で、今年は新たに環境認識システムとしてパソコンに繋がったカメラで人を認識するデモを行い、訪れた方々の興味を惹いていました。

寺嶋先生のグループによる
全方向移動型車椅子

◆絵画部門

※特選該当者なし

入選

「世界遺産」

平木場 郁央さん

(明日香利用者)

入選

「昆虫図鑑」

手塚 吉一さん

(あかね荘利用者)

入選

「金魚」

藤城　博さん

(若菜荘利用者)

車椅子やコミュニケーションロボットも改良が加えられ、日々の研究に対する努力が伝わってきました。

訪れた人々からは特に全方向移動型車椅子の体験が好評で、順番待ちの列ができるほどでした。

今後もさわらび会は、このような豊橋技術科学大学の福祉ロボットの研究、開発に対し現場のニーズを反映できるよう協力していきます。

(金森)

三浦先生のグループによる人識別ロボット

岡田先生のグループによるコミュニケーションロボット

◆手工芸部門

入選

「秋鶴」
佐藤 仁衣子さん
（あかね荘職員）

特選

「美人画」
斎藤 咲子さん
（さわらび荘職員）

◆陶芸部門

入選

「花入れ」
白井 内海さん
（第二さわらび荘職員）

特選

「小鉢」
居澤 知佳さん
（福祉村病院職員）

第3回さわらび賞 福祉作文コンクール

さわらび会では今年も、小・中学校の皆様を対象に福祉作文コンクールを開催させていただきました。多数のご応募ありがとうございました。

そして厳正なる審査により左記の皆様の作品が入賞されました。

（鳥居）

最優秀賞
長谷川岳史（石巻中学校 三年）

優秀賞
佐野 結那（石巻中学校 三年）
渡邉 伽（高師小学校 五年）

入選
本間 愛美（南棟中学校 一年）
金子 凌空（芦原小学校 三年）
村田 真悠（高師小学校 六年）
川村絵里花（高師小学校 六年）
井上 紗里（高師小学校 六年）
（敬略称）

●表彰式の様子

入選
「日本人形」
岡田 敏子さん
（第二さわらび荘利用者）

入選
「アンパンマンのフェルト絵本」
山下 智子さん
（明日香職員）

◆書道部門
特選　坂牧由里子（若菜荘職員）
入選　青山つゆみ（常盤職員）
入選　青木幸夫（若菜荘利用者）
入選　村松頼雄
（福祉村地域包括支援センター利用者）

◆絵画部門
入選　手塚吉一（あかね荘利用者）
入選　平木場郁央（明日香利用者）
入選　藤城　博（若菜荘利用者）
※絵画部門の特選は該当者なし

◆陶芸部門
特選　居澤知佳（福祉村病院職員）
入選　白井内海（第二さわらび荘職員）

◆手工芸部門
特選　斎藤咲子（さわらび荘職員）
入選　佐藤仁衣子（あかね荘職員）
入選　山下智子（明日香職員）
入選　岡田敏子（第二さわらび荘利用者）

◆写真部門
特選　三津井昭二
（第二さわらび指定訪問介護事業所利用者）
※表紙に掲載
入選　山本早苗（第二さわらび荘職員）
※裏表紙に掲載
入選　竹内喜代美（ジュゲム職員）
※裏表紙に掲載

第30回 さわらび文化祭

十一月三日、さわらび文化祭が福祉村にて開催されました。今年のテーマは「がんばろう日本　がんばろうさわらび会」。三月に起きた東日本大震災で被災された方々へのエールとして、震災復興販売会や「防災・福祉・災害支援」のパネル展示、福祉村各所での募金活動等が行われました。またゲストとして佐原光一豊橋市長や、F1ドライバー山本左近選手も登場し、関連グッズの展示・販売も大変好評でした。その他にも、各種模擬店や企画が多くの方々で盛り上がっており、今年も大盛況の文化祭となりました。（石田）

豊橋市立青陵中学校 体験実習

～特別養護老人ホーム　さわらび荘～

平成二十三年十一月九日、青陵中学校三年生の皆さん十七名が、体験学習のためさわらび荘に来られました。

今回の体験では、総合的な学習の時間の中で、十七名の生徒さんが高齢者福祉に関心を持ち、校区内にあるさわらび荘にて、実際に高齢者の方と触れ合うことで高齢者福祉の理解を深めていただく目的で訪問していただきました。

当日、近所のお寺に入居者の方と散歩に行きながら交流を図っていただき、また高齢者福祉に関して様々な質問をされました。今後も社会福祉学習のお手伝いをしていきます。

（渡邊憲）

第1回合同ケア会議 さわらび会の人財育成への取り組み

～特別養護老人ホーム　第二さわらび荘～

この誌面でも度々お伝えしています通り、さわらび会では来年に向けて「みのわ」「すぎやま」の二か所の小規模特養を中心とした施設をオープンします。それに伴い、現在働いている職員やこれから雇用する職員のレベルアップが喫緊の課題となっています。

このような中、山本ゆかり社会福祉法人さわらび会専務理事より「さわらび会で働いている職員は宝物です。利用者へよりよいサービスを提供できるように職員が成長できる体制作りをみんなで考えて行きましょう」とのことで、各施設で中心的な職員に集まっていただき、第一回の合同ケア会議を行いました。定期的に会議を行い、職員のレベルアップに努めて行きたいと考えています。

（東郡）

被災された方へ心を込めて編みました

～軽費老人ホーム　若菜荘～

十一月吉日、若菜荘では以前より入居者のみなさんが一編み一編み心を込めて作られた、毛糸のマフラー・帽子など百五十点程を宮城県東松山市の特別養護老人ホーム「やもと赤井の里」の利用者さま宛に送らせていただきました。

被災地の方にとっては厳しい冬の季節になりますが、今後も若菜荘でできることを入居者の方と一緒に考え、行っていきたいと思います。

また毛糸をご協力くださいましたみなさま、大変ありがとうございました。

（坂牧）

ゴロバレーボール大会初優勝を達成しました！

～障害者支援施設　珠藻荘～

十月十九日に愛知県ゴロバレーボール大会が名東区スポーツセンターで行われ、珠藻荘が初優勝を飾りました。これまでは上位入賞はおろか、昨年は総合でも最下位という結果でした。そこで今年は練習から一層真剣に取り組み、参加できない方も一生懸命応援して支え合っておられました。そして迎えた本番では一人一人の力が結集し、ついに優勝を成し遂げました。まさに、「みんなの力でつかんだみんなの初優勝」となりました。

（鳥居）

豊橋創造大学看護実習生受け入れ開始

～福祉村病院　看護部～

十一月から来年の七月までの半年間、豊橋創造大学保健医療学部看護学科の第一期生七十一名の看護実習生を受け入れることになりました。老年看護実習を目的として昨年から学校側から準備を進め、病院でも実習指導者を中心に受け入れ体制を整えてきました。地域における専門病院として、また看護者として老年看護のやりがいやおもしろさを学んでいって欲しいと思っています。

実習生を受け入れるということは、看護師として後輩を育てると同時に、私たちの日頃の看護を見直す良い機会でもあります。老年看護のプロとして福祉村病院にしかできない看護を患者様のために提供できるよう学生と一緒に勉強していきたいと思います。

（山本）

出前講座～体操で若返り教室開催～

～福祉村地域包括支援センター～

十月十九日南部地区市民館にて転倒予防をテーマに①転ばない体作りの話、②リラックス体操、③バランス・筋力運動（膝伸ばしと足あげ）、④足指ジャンケンを行いました。皆で手を繋ぎバランスを取る動きでは笑顔もこぼれ、和気あいあいとした雰囲気の中で体操ができました。

今後も地域の皆様が楽しく健康づくりや介護予防に取組めるよう、お手伝いをさせていただきたいと思います。

（居澤）

湯かいな心の交流スペース

～福祉コンビニ～

豊橋市曙町にある銭湯「曙の湯」に常設の展示スペースがこの度できることになり、曙の湯様のご好意により栄えある第一回目の展示を、「さわらびホーム」主催の絵画教室での作品で飾らせていただくことができました。障害を持った在宅の方やホーム利用者の十四名の力作を皆さんに見ていただき、曙の湯のお客様からも「どの作品も味があって素晴らしい」との声をいただけました。

このような機会を提供していただいたことに感謝し、地域の皆様に障害への理解を深めていただく場としてますます充実されることを願っています。

（井上）

地域との楽しい連携

～福祉コンビニ～

東雲町の秋祭りに、今年も明日香ホーム利用者が、付き添いの職員と共に参加しました。この町内は商店街もありますが、近年働き盛りの人口が減り高齢者と子供の姿が目立つようになりました。このような状況の中、貴重な山車の引き手として町内の方に声を掛けていただきました。これは、障害を持った人達が町内に暮らしていることを認めてくれている証しだと思います。

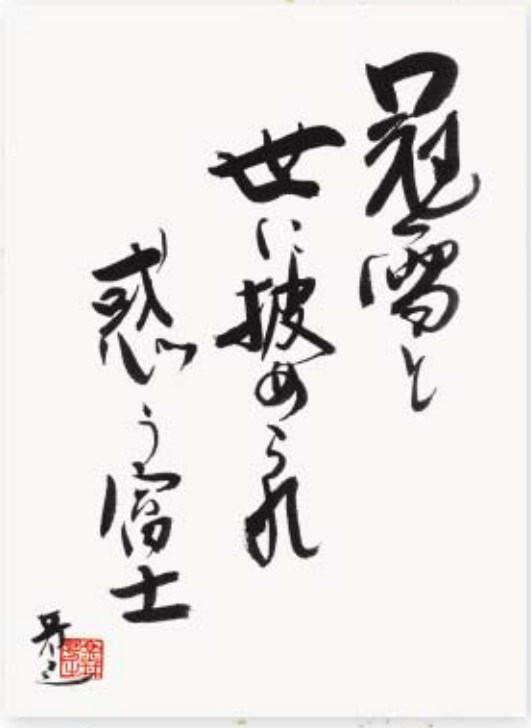
少しずつではありますが、町内の方と協力し合いより豊かな地域生活を送りたいと思います。

（井上）

俳句浪漫

直筆の書で季節を彩る

ジュゲム施設長・東京大学客員研究員
金井 芳之



冠雪と 世に披められ 惑う富士

今年は例年より一週間ほど富士山の初冠雪が早かった。とは言え、晴れていれば毎週新幹線からは必ず見える冠雪も、報道されてから一カ月を過ぎても、未だに確認出来ないのだ。富士の初冠雪宣言は山梨の甲府市内のある場所から判定するらしい。情緒的ではあるが気象上は不正確である。従ってその後、雪が降り続かなければ東海側からは見えないのは当然である。「富士は四季折々の衣装を纏い、風流人を楽しませてくれるのに、霜月に入っても富士の姿は夏そのもの」と言われるのは富士にとってはなはだ迷惑だ。冠雪は地域だけのものとして味わってもらえればよいのでは…。

新幹線「ひかり」からの雪なし富士の眺望

Vol. relay column 45

さわらび会 のわ

障害者支援施設あかね荘
サービス管理責任者
中陳 規幸

■待望の我が子

ひと月ほど前になりますが、待望の我が子が誕生しました。予定日より五日早かった為、低体重児届を出すことになり、新米パパ&ママは早速ドキドキ。ですが、周囲の方々から「小さく産んで大きく育てるという言葉もあるよ」と温かい言葉をいただいて安心しました。夫婦二人で、無事に娘の体重が増えてくれれば…と願っておりました。

ですが、すぐの退院は叶わず、二週間市民病院内の新生児医療センターにお世話になりました。その間、家内を送迎しての授乳、面会、検診と慌ただしく、どのような日々を過ごしてきたのか思い出せない部分もありました。

退院後も、当初はミルクの飲みが良くなく、本当に元気に育ってくれるのか心配でしたが、今ではグビグビ喉を鳴らして飲んでおり、母乳だけでは足りずに哺乳瓶が必須。先日、三〇〇〇グラムを超えてホッとしているところです。

幸いなことにあかね荘は先輩パパ、ママが大勢いるので、困った時はすぐに尋ねられるのでありがたいです。皆さん、色々教えてくださいね。

次回は、老人保健施設ジュゲム庶務課長山本公伸さんです。

第65回

いかり先生の“お遍路さん”

―四国八十八ヶ所霊場めぐり―

●善通寺の戒壇めぐり

福祉村病院 副院長　伊苅 弘之

第七十四番甲山寺から第七十五番五岳山善通寺まで約二キロ、徒歩で二五分、車で五分。

ここ香川県善通寺市はもともと善通寺の門前町として栄えた町だ。だから善通寺は街中にある。善通寺は弘法大師の生誕の地であり、地元では「お大師さん」と呼ばれている。弘法大師は讃岐の地方豪族佐伯氏の三男として生まれたが、善通寺は佐伯氏の屋敷があった場所だと言われている。

駐車場に車を止めて、どこに行けばいいのかと迷ってしまいそうだった。とりあえず門がある方にみなで歩いて行った。「ずいぶん広いね」「今までの寺より人が大勢いるね」「観光の人も多いね。」「どこでお参りしたらいいのかな」と私。「五重の塔が素敵だね」と子供たち。いまの五重の塔は明治一七年に再建されたものだ。

弘法大師は八〇六年に唐から帰国した。唐から持ち帰った八ヶ霊場の土砂をまき、唐の青龍寺を模して善通寺の伽藍を作ったといわれる。青龍寺は空海が恵果阿闍梨から密教のすべてを伝授された場所だ。八一三年に七堂伽藍が完成した。

御影堂の地下には「戒壇めぐり」がある。真の暗闇の体験だ。眼を開けていても全く何も見えないのが真の暗闇だ。真の暗闇が続く七〇メートルほどの通路を歩くことになる。壁に左手をつけて「南無大師遍照金剛」と声を出して歩くことに決めた。母、家内、高一の娘、小六の娘、私の順に並んで進むことにした。本当の暗闇の恐ろしさを思い知らされた。みな必死で「南無大師遍照金剛」と叫ぶように唱えていた。突然「おねえちゃん、手離したらいかん、恐いよう」と小六の娘が泣きだした。私より二、三メートル先で声がした。「あんたが離すから。ゆっくり壁につたっておいで」「いやだよ、恐いよ」「甘えたらいかん。みんな暗くて何も見えんのだよ」「いやだよう」…「あ、おとうさん、ありがとう。手をひいてくれて、おねえちゃんに触れた。ありがとう」「よかったね」という子供たちの会話が聞こえた。そのとき私は子供たちから三メートルくらい後方だった。いったい誰が小六の娘の手をひいてくれたのだろうか。われわれのそばに他の参拝者はいなかったはずだ。その時は不思議だと感じる余裕すらなかった。

さわらび大学レポート

◉2011年11月10日講義

感染症予防について

福祉村病院小橋修院長を講師に招き「感染症予防について」をテーマとしてさわらび大学を開講致しました。

「感染症」の流行する季節に向けて、ウイルスやワクチンの現状を分かりやすく解説していただき、「感染症」を予防していくためには①食事は腹八分目②良く噛むこと③身体を動かすこと④規則正しい生活を送ることが重要であることを教えていただきました。

さわらび大学 休講のお知らせ

インフルエンザ等の感染症予防のため11月末～3月のさわらび大学は、休講にさせていただきます。

さわらび Diary 日記

H23.10.16～11.15

◆福祉村病院・ジュゲム

10月18日 感染対策委員会
第二病棟家族会
19日 医療安全委員会
20日 第一病棟・さくら通り病棟家族会
21日 緑保健所主催の認知症うつ予防教室（緑保健所）にて伊苅弘之副院長が「認知症の予防」について講演
22日 日総研出版主催の公開セミナー「認知症ケアマスター第1回」（田村駒ビル・大阪市）にて伊苅弘之副院長が講義
24日 臨時施設長会議（ジュゲム）に理事長出席
早蕨編集会議（理事長出席）
26日 保健所立ち入り検査
27日 橋詰先生によるCPC（理事長出席）
さわらび大学「認知症サポーター養成講座」
福祉村地域包括支援センター
28日 緑保健所主催の認知症うつ予防教室（緑保健所徳重分室）にて伊苅弘之副院長が「認知症の予防」について講演
さわらび会文化祭（理事長出席）
11月3日 名古屋市高年大学（名古屋市高年大学鯱城学園）にて伊苅弘之副院長が「認知症ケア、こんな時どうする」について講義
7日 ジュゲム幹部会
8日 第12回「三浦半島認知症を考える会」（メルキュールホテル横須賀・神奈川県）にて伊苅弘之副院長が「BPSDに対する具体的な対応」について講演
9日 さわらび大学「感染症予防」福祉村病院院長小橋修氏
10日 病院幹部会（理事長出席）
11日 日総研出版主催の公開セミナー「認知症ケアマスター第2回」（田村駒ビル・大阪市）にて伊苅弘之副院長が講義
13日 臨時施設長会議（ジュゲム）に理事長出席
15日

◆さわらび荘

10月18日 白珠防災訓練
19日 豊老協全体会研修会・親睦会（施設長・渡邊憲・宮　尾上・澤田・判家・坂神・島本・遠山・河邉・鈴木重・木村・加藤・宮地
豊橋商工会議所）
豊川市介護保険関係事業者連絡協議会・研修会（白井秀・浅見・日下部・松井　豊川）
24日 生活・介護支援サポーター養成講座修了式（施設長・松下・白井秀・勝山　牛川校区市民館）
30日 俳徊見守りネットワーク会議（白井秀　名古屋）
11月2日 ニッセイ財団シンポジウム（渡邊憲　東京）
4日 豊老協臨時総会（施設長　第二さわらび荘）
5日 看護師卒業研修会（肥田　ホテル日航豊橋）
11日 神経系難病患者・家族のつどい（浅見　豊橋市保健所）
企業防災研修会（藤原・渡邊憲・白井有
ライフボートとよはし）
和楽会老人クラブ定例会（松下・勝山　和田集会所）
青陵地区市民館祭り（松下・勝山　青陵地区市民館）
13日 東陵地区市民館祭り（白井秀　東陵地区市民館）
15日 鳥取県こうほうえん主催ケアコンテスト（柴田　鳥取）

◆第二さわらび荘・カサ　デ　ローザ

10月19日 豊老協全体会（施設長・長坂・東郡・松下・黒柳・伊藤志・野崎・松原・西崎・鈴木祐・清水・酒匂・萩原・奥田　市商工会議所）
22日 県介護福祉士会ファーストステップ研修（施設長　名古屋）
25日 愛老協拡大役員会（施設長　名古屋）
26日 全老施協正副会長委員長会議（施設長　東京）
27日 認知症対応型サービス管理者研修（中西・横山・金森　岡崎　～28日）
30日 ニッセイ財団シンポジウム（長坂・東郡　東京）
11月2日 県介護福祉士会サービス提供責任者研修（野崎　名古屋）
4日 愛老協看護師研修（足立　名古屋）
豊老協臨時総会（施設長　第二さわらび荘会議室）
5日 県介護福祉士会初任者研修（宮林・高山　名古屋　～6日）
7日 宝陵高校生実習（3名　～18日）
9日 全老施協全国老人福祉施設大会高知大会（施設長　高知　～10日）
11日 国際厚生事業団巡回訪問
県社協東海北陸6県社会福祉施設経営者セミナー愛知大会実行委員会（施設長　名古屋）
12日 レジデンシャルケア研究会議（東郡　四日市）
県介護福祉士会初任者研修（宮林・高山　名古屋）
13日 県介護福祉士会サービス提供責任者研修（野崎　名古屋）
15日 東海北陸ブロック老施協運営委員会及び正副会長会議（施設長　岐阜）
オールジャパンケアコンテスト（井上　鳥取　～16日）

◆珠藻荘

10月17日 教職員免許状取得のための介護等体験　立命館大学より一名受け入れ（～21日）
19日 自治会役員会
愛知県ゴロバレーボール大会（利用者7名参加　名古屋）
20日 浜松市南区民生委員施設見学
レストランたまも亭
豊橋市指定相談事業所連絡会（松井伸・玉城　市役所）
21日 豊橋養護学校より生徒さん珠藻荘来荘（施設見学及び副施設長田中による講話）
26日 自治会
ワックスがけ
27日 珠藻荘建設会議（施設長）
28日 非常通報装置操作訓練
愛知県生活向上委員会（石田　ハートランド小牧の杜）
31日 障害児（者）とボランティアのつどい（三浦・松川・山本雅　あいトピア）
11月6日 夜間想定避難訓練
7日

9日 本郷中学校福祉体験受け入れ（3名　～10日）
15日 相談支援従事者研修初任者研修講師（松井伸　名古屋）
相談支援従事者初任者研修（玉城・佐藤　名古屋）

◆若菜荘

10月18日 誕生会
豊橋老人福祉施設協議会（施設長　豊橋商工会議所）
19日 豊老協全体会（施設長・金子幸・安立・石田・宮脇・山口・渡會　豊橋商工会議所）
20日 全軽協理事・役員会（施設長　東京）
24日 社会福祉法人新会計基準セミナー（金子幸　名古屋）
25日 喫茶なかよし
愛老協拡大役員会（施設長　名古屋）
27日 運動・健康教室
28日 荘内勉強会
管内栄養士会議（宮脇　ほいっぷ）
11月4日 豊老協臨時総会（施設長　第二さわらび荘）
7日 食生活会議
若菜荘役員会
8日 各階別会議
全老施協全国老人福祉大会高知大会（施設長　高知　～10日）
9日 本郷中学校体験学習受け入れ（4名　～10日）
10日 運動・健康教室

◆あかね荘

10月17日 健康診断実施
発達障害者の支援手法研修（高橋　名古屋）
赤羽根福祉センター合同防災訓練
福祉の集い実行委員会
18日 支援会議（26日）
地域支援事業所会議（石川）
相談支援事業所連絡会事務局会議（石川・伊藤）
19日 進路指導関係諸機関連絡会（鈴木巳・伊藤）
20日 あかねホーム会議
発達障害指導者研修フォローアップ（鈴木巳）
21日 相談支援事業所連絡会（伊藤・石川）
誕生日会
22日 田原市障害者生活支援センター「図工教室」
24日 語りべの会
木藤会計来荘
明星大学実習受け入れ（1名　～1日）
研修「成人の発達障害と就業支援に向けて」参加
25日 TIDテニス（石川・鈴木巳）
28日 田原市自立支援協議会　事務局会議
なのはな外食会
豊橋市保健所管内栄養士会（小田　ほいっぷ）
11月1日 田原市障害者生活支援センター「調理教室」
30日 研修「自殺・うつ予防対策研修会」参加
6日 障害児（者）とボランティアのつどい（石田・杉浦　あいトピア）
7日 自立支援協議会（鈴木巳）
8日 田原市自立支援協議会　運営会議

9日 経営会議
10日 職場研修「介護保険について」
インフルエンザ予防接種実施
委託事業所連絡会（石川）
11日 支援センター「図工教室」
14日 東京庵招待
宝陵高校実習受け入れ（3名）
心身障害者ホーム部会施設訪問研究会（白井　小牧）
15日 相談支援従事者初任者研修（伊藤　名古屋）
医務室改修工事開始

◆明日香屋

10月17日 発達障害者の支援手法研修（藤井葉　名古屋）
18日 東三セルプ施設長会議（施設長　レインボーはうす）
19日 サービス管理責任者合同講義（末松・内山　名古屋）
20日 食品衛生講習会（城所　豊橋市保健所）
21日 田原福祉専門学校実習受け入れ（4名）
25日 くくむガーデン試食販売
26日 ケアホーム連絡会
社会福祉法人の新会計基準実務研修会（鈴木・藤井陽　名古屋）
28日 回診日
管内栄養士会（菅沼　豊橋市保健所）
田原福祉専門学校実習受け入れ（4名）
JAあぐりパーク食彩村試食販売
30日 ニッセイ財団シンポジウム（鈴木　東京）
31日 社会福祉事業者役職員特別セミナー（藤井陽　名古屋）
11月2日 利用者文化祭振替休日
7日 社会福祉事業者役職員特別セミナー（施設長　刈谷）
東三セルプ療育研究会（山下・楠　もくせいの花）
8日 世話人会議
9日 本郷中学校体験学習（2名）
10日 自治会
11日 利用者工賃日
バスハイク

◆各施設共通

10月24日 施設長会議
25日 福祉村クリーン運動
27日 さわらび大学
さわらび文化祭
11月3日 施設長会議
8日 施設長会議
9日 障害者担当会議
10日 在宅医療福祉部会
15日 栄養士会議

さわらび会後援会寄附ご芳名

平成23年10月15日～11月14日

市内大清水町52-2	近藤道恵氏	10,000円
市内高師町字西沢106-5	浅倉茂氏	1,000円
市内大岩町字前田40-25	渡邉憲司氏	10,000円
市内牧野町91	小松ウメ氏	5,000円
豊橋みなとライオンズクラブ 学校法人唱和学園 野依校区自治会 井上食品 田京豆腐店 水野勲氏 日野仙一郎氏 中神尚人氏 志満津啓司氏		110,000円
東京都新宿区左門町9	・国民保健会	10,000円
市内野依町字西物草12	家具の街ヨコモクランド	10,000円
市内小池町36-1	共和印刷㈱	5,000円
市内高塚町神田68	田京敏明氏	5,000円
市内中岩田三丁目11-3	白井良治氏	1,000円
市内弥生町字西豊和9-9	林　昭氏	10,000円
市内萱町30	㈱中野新松商店	10,000円
市内瓜郷町前川50-1	㈲東三らぼセンター	10,000円
市内問屋町15-5	㈱スズケン	10,000円
市内東新町314	㈱日医工新和	10,000円
市内東田町154	・竹田商店	10,000円
市内東脇三丁目1-17	森田由利子氏	10,000円
市内白河町100	中部ガス㈱	10,000円
市内神野埠頭町2	神野臨海㈱	10,000円
市内野依町字山中19-14	福祉村病院職員有志	3,000円

その他匿名希望多数の方よりご寄附いただきました。
計　260,000円
現在までにご寄附いただきました金額は
840,798,914円

●福祉用具紹介のコーナー

転倒防止車イス　立ち止まり君

プレーキのかけ忘れや不意の立ち上がりで発生する転倒事故で骨折から寝たきりになるケースも…そんな転倒から利用者を守る車イスが「立ち止まり君」です。

重量感知センサーにより自動でプレーキがかかり、転倒事故を防止できます。

＊要介護2以上の方なら介護保険でのレンタルが可能です。レンタル事業所によって価格は異なりますのでお問い合わせ下さい。

問い合わせ先

福祉村指定居宅介護支援事業所　☎(0532)46-3566
さわらび指定居宅介護支援事業所　☎(0532)54-7377
福祉村病院訪問看護部　☎(0532)46-7511㈹
福祉サービス株式会社　☎(0532)66-1011
（福祉村地域包括支援センター　居澤）

室屋義秀氏エアショー

さわらび10月号でお知らせしたとおり、11月13日(日)豊橋みなとシティマラソンの特別企画としてエアロバティックスパイロット室屋義秀氏のエアショーが行われました。

当日は快晴で風も穏やか、絶好のエアショー観覧日和でした。10時過ぎ頃に青い機体が通り過ぎてエアショーが始まり、室屋義秀氏が乗るEXTRA300Sの機体が曲技飛行を始めると待ち構えたカメラマンが無数にシャッターを切り、観覧していた方々が歓声をあげていました。（金森）

天然素材で作られたクリスマスリース　明日香にて　販売中！

お問い合わせ先▶障害福祉サービス事業所　明日香
☎(0532)46-6579

お礼コーナー　ありがとうございました

※は豊橋善意銀行を通して

▼長坂稔様　ねぎ寄贈※（珠藻荘・若菜荘・あかね荘・明日香）
▼岩崎里山の会様　キウイ寄贈※（珠藻荘）
▼ＦＤＫ株式会社様
　中古ファイルケース20個寄贈※（明日香）
▼杉本屋製菓㈱様
　箱菓子（ゼリー・ようかんなど）10箱寄贈※
　（明日香・あかね荘・しろがね・若菜荘）
▼豊橋ビルメンテナンス研究会様
　家庭用清掃用品寄贈（さわらび荘・第二さわらび荘・珠藻荘・あかね荘・明日香・若菜荘・しろがね）
▼有限会社　福益工業所様　トイレットペーパー寄贈（明日香）
▼東京庵食事招待※（あかね荘）

第30回 さわらび文化祭 秋陽展

◆写真部門 優秀作品

入選

「昼下がり」

竹内 喜代美さん
（ジュゲム職員）

入選

「盛秋
—酔いしれて—」

山本 早苗さん
（第二さわらび荘職員）

特選

◎表紙写真

「秋の朝倉川」

三津井 昭二さん
（第二さわらび指定訪問介護事業所利用者）

編集後記

すっかり寒くなりました。去る十一月二十日、豊橋総合動植物公園で開催された第五回階段駆け上がりレースを観戦。全国の消防士が火災現場と同じ装備で三十kgの土嚢を持ち上げて約百七十m走った後、煙道をくぐり抜け、展望塔の非常階段を消防ホースを担いで最上階へ登るまでの時間を競いました。熱き消防魂感じてきました!!

さて、今号の特集はさわらび文化祭秋陽展受賞作品紹介です。今までは十一月号の特集として掲載されていましたが、紙面の制約などもあり、全ての入選作品を掲載することが出来ませんでした。今回は部門別に入選作品を紹介しています。如何でしたでしょうか?ご感想をお寄せ頂ければ幸いです。また豊橋技術科学大学人間・ロボット共生リサーチセンター長寺嶋一彦教授のご協力で開催された福祉ロボット展、今回は開発グループ別に紹介する事が出来ました。準備で忙しい中撮影に協力していただいた学生さん達、ありがとうございました。

（谷）

- 特別養護老人ホーム さわらび荘 ☎(0532)54-3501 法人本部 豊橋市浪ノ上町7-2
- グループホーム白珠 ☎(0532)66-0082
- 地域密着型サービス事業所 常盤 ☎(0532)62-3370
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウス カサ デ ローザ ☎(0532)37-1209
- 軽費老人ホーム 若菜荘 ☎(0532)48-1138
- 障害者支援施設 珠藻荘 ☎(0532)47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘 ☎(0532)48-2825
- 障害福祉サービス事業所 明日香 ☎(0532)46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね ☎(0532)48-1032
- 福祉村病院 ☎(0532)46-7511
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム ☎(0532)46-7501
- 福祉コンビニ(東雲町) ☎(0532)69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生 ☎(0532)38-9090
- 第三福祉コンビニ赤羽根 ☎(0531)45-3828

充実した医療と福祉 みんなの力で みんなの幸せを

社会福祉法人 医療法人 さわらび会
理事長 山本 孝之

さわらび

2011年12月1日発行 毎偶 第464号 毎月1日発行
（昭和62年2月21日第三種郵便物認可）
編集責任者●谷さやか 印刷●共栄印刷㈱ 定価●100円